

Message

定年を迎える先生からの メッセージ With heartfelt thanks.



歯学部 教授
千葉 逸朗

「ご挨拶」

先日は私の最終講義「Lovely Sri Lanka, ラブリー当別」では多くの方々にご参加いただき、心より感謝申し上げます。コロナ禍の中、東京、名古屋など遠方からオンラインでご参加くださった方も多数おられ、ポストコロナに向けて新たな試みとなったと思います。

本学に赴任してこの3月で丁度20年になります。もともと口腔外科医だったのですが、訳あって突然公衆衛生、口腔衛生の分野に足を踏み入れました。そのため、1年目は学生教育で大変苦勞しました。国家試験での出題数が多く、必死に勉強し直し、学生の前では10年前から知っていたようなふりをしていました。今から考えると冷や汗ものです。一方で、COEへの挑戦、現代GPでの学生教育と地域とを結びつける「キャンパスレス教育」の推進、スリランカでの口腔がん予防プロジェクト、当別町でのフッ化物洗口事業など、思いついたことをがむしゃらにやった感じです。そして、このような苦勞が結実したのが模擬患者さんの育成です。当別町からたくさんの方が医療コミュニ

ケーション教育に参加してくださっています。

2014年には僧帽弁閉鎖不全症、うっ血性心不全となり、一世一代の大手術を受けて、死の淵から生き返りました。ICUで意識朦朧としていた時に、執刀医から「千葉先生、完璧!」と言われた時の天にも昇る気持ちは今でも心に残っています。医療人の一言は大切です。このような経験をすると人生観が変わります。「人のため」と思ってやってきた学生教育、地域貢献など人々を幸せにすることが、結局自分の喜びにもなっていることに気が付きました。

本学は医療系総合大学として、多職種連携の授業が簡単にできる環境にあります。シラバスに「縛られる」ことなく、学部の壁を取り払いたいと考えています。とりあえず引退という形ですが、模擬患者さんのお世話は致しますので、担当教員の先生方にご相談申し上げます。何卒よろしく願い申し上げます。



看護福祉学部 教授
向谷地 生良

北海道日高にある総合病院精神科で25年間にわたって、メンタルヘルス領域のソーシャルワーカーとして臨床経験を重ね、2003年4月から現在まで、本学の看護福祉学部臨床福祉学科の教員としての勤めを果たし18年目の今年3月をもって定年退職をすることになりました。通算して43年におよぶ研究者、臨床家としての歩みを振り返るならば、研究者としてのキャリアが全くない私が、これまで大学で仕事を続けられてきたのも、公私にわたる多くの皆様の助けのお陰だと思ひ深く感謝しております。本当にありがとうございました。

振り返れば、医療大に来てからの20年は、経済を

はじめさまざまな領域で日本の国力が損なわれ「失われた20年」と言われています。そして、それに追い打ちをかけるように東日本大震災、そして、昨年から続いているコロナ禍の中で、多くの生活困窮者が生まれ、人々の暮らしを支える福祉の役割はますます重要になっています。4月からは、そのような問題意識を持ちながら特任の教員として、引き続き先端研究推進センター当事者研究分野と学科の先生方と一緒に、本学の特色を生かした地域、市民、当事者と共同した研究と実践に関わっていく予定ですのでよろしく願い致します。



看護福祉学部 准教授
長谷川 聡

1955年生まれで定年退職となります。本学園の教員・職員、関係の皆様方、そして数多くの学生の皆様から身に余るご厚情を長く賜りました。まずは誌上をお借りして厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。そして皆様のもますますのご活躍とご多幸を、そして本学園のますますの発展を心底よりお祈り申し上げます。

私こと、看護福祉学部開設と共に東京から赴任して来道いたしました。1993年4月1日午前8時半過ぎ、正面守衛室・事務局へ出向いて出勤した旨を伝えた時、「えっ、もう来られたのですか。まだどなたも来ていません」「これが研究室の鍵です。新学部の先生で最初です」と言われたことを憶えています。

本学着任までに10回以上の引越を経験していました。しかし関東の外へ出たのは初めてでした。本学への

赴任話が始まるまで、北海道は来たこともありませんでした。道内に友人知人は両の手で数えられるほどしかいませんでした。

以来、28年の歳月が流れました。福祉の研究・教育・実践活動のために学生諸君やボランティアの皆様と、遊ぶために家族と、そして新しく友人となってくれた多くの皆様と、北の大地の東西南北中央を隈なく走り回り、179市町村のうち未踏のまちは一つ二つばかりになりました。そして最近、定年後も本道に住み続けるつもりで実家を処分し本籍も移しました。移住民である私と家族を温かく迎え入れてくれた北海道に恩返しするつもりで、この地の人々とのつながりを大切に、退職後も地域貢献活動を続けていくつもりです。あらためましてありがとうございました!!



リハビリテーション科学部
教授
泉 唯史

2013年に本学に就任して8年が経ちました。5番目の新設学部のリハビリテーション科学部長・研究科長を拝命し、学部の先生方とともに教育と研究の環境整備を行ってまいりました。

理学療法学科・作業療法学科の2学科開設と大学院リハビリテーション科学研究科博士前期(修士)課程の開設で幕が開け、その2年後には言語聴覚療法学科の改組により3学科体制となり、同時に大学院博士後期(博士)課程を開設。その翌年以降、文部科学省によるヒアリング、大学基準協会による審査などを受審しました。あの膨大な報告書の作成には執行部の先生や事務局の方たちの非常に大きな支えがあって進めることができた事業でした。

この1年は新型コロナウイルスの感染拡大というこれまで経験したことのない事態に直面し、講義はほぼオンラインに代わりました。特に臨床実習が軒並み中止となりました。臨床経験を经ない学生に対し、学外実習に代わる代

替実習を考案・実践していただいた教員の素早い対応には心から感謝を申し上げます。

北海道での臨床を経て1995年に岡山県で大学教員のキャリアをスタートさせ、一貫して呼吸・循環器系のリハビリテーションの実践と教育を行ってまいりました。重複障害を有する高齢者のリハビリテーションにとって、この分野はますます重要になっています。急性期から生活維持期に至るまで、命とQOLにかかわるこの分野はすべての職種が協働して介入することが必要です。本学は、リハビリテーションのコアスタッフ3職種の教育を、他学部を含む多職種との連携により推進し、より質の高い医療を提供することを教育上の理念として明確に示しています。このようなすばらしい大学で、皆様に支えられながら今日の日を迎えることができますこと、心から嬉しく思います。今後ともリハビリテーション教育に携わりながら、多少なりとも恩返しできればと思います。ありがとうございました。



リハビリテーション科学部
教授
西澤 典子

「定年退職にあたって」

2008年に心理科学部言語聴覚療法学科教授として赴任して以来13年間お勤めをさせていただき、2021年3月をもちましてリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科を定年退職いたします。お世話になりました同僚、先輩の皆様、支えてくださった事務方の皆様、そして臨床をともにしてくださいました医師、言語聴覚士、スタッフの皆様方に心より御礼を申し上げます。

言語聴覚療法を自身の研究、臨床の中心に据えるということは、医師になって以来一貫した希望でありました。北海道大学の非常勤医師として専門外来での限られた臨床研究を業としていた私を見出してください、本学に職位を与えてくださったおかげで、たくさんの有能な言語聴覚士と仕事を共にすることができ、大

学、大学院で学生の教育にも携わることができました。医療大学での私の業績は、ひとえにこれら共同研究者と学生さんとの協働の賜物であります。職業人として本当に幸せであったと思います。これからは、すこし時間の余裕をもちながら、まだ書き残しているかもしれない論文、書籍の執筆にあたりたいと思います。

ただいまは疫病の蔓延という非常事態で、職員も学生さんも、大変にストレスの多い日常を送られていることと思いますが、このような災厄はいつか終わりますから、その日を楽しみに、今しか得られない知見を蓄え、次の時代に活かしていきましょう。北海道医療大学の益々の発展をお祈りいたします。ありがとうございました。

定年を迎える先生からのメッセージ



予防医療科学センター
教授

柴田 陸郎

「長年お世話になりありがとうございます」

私は2006年4月1日に北海道医療大学病院小児科に赴任しましたが、以前クリニック時代の当院へ応援に来ていたことがありました。当時一緒した方々もほとんどお辞めになり実質的にクリニック時代を知る最古参のメンバーになってしまいました。一人医長でしたが毎週水曜日午後には北大小児科から応援をいただき学内の兼任講師や北海道教育大学札幌校の非常勤講師を務めました。亡父は高校の教員で私には教職への憧れがありましたのでかなり力を入れて講義をしましたが熱意はさほど評価されず悲しい思いをしました。それでも国家試験の合格を報告しに外来を訪ねてくれた学生さんや卒業後に自分の弟を外来によしてくれられた方の存在など教師冥利に尽きる思いもさせていただきました。

2018年9月6日の北海道胆振東部地震のすぐ後9

月28、29日にロイトン札幌で第51回日本小児呼吸器学会を主催することができました。テーマを「多職種連携と知識共有」と定め演題100、出席者400を超える学術集会を成功裏に終えることができたのは事務局長の岩尾一生薬局長はじめ学内の多くの方々のご助力の賜物です。また本学同窓会からは同窓生研究助成金をいただいたこと深謝します。

学位は神経系のウイルス感染症で取得しましたが、個人で細々とEBCP(根拠に基づく臨床)の研究を継続しています。本職の小児科専門医・指導医の資格のほかにECFMG、小児神経専門医、プライマリ・ケア学会認定医・指導医、日本ウイルス学会ICD、産業医・介護支援専門員など多くの資格を得ました。私の働きながら資格を取得するノウハウを学生さんたちにお伝えしきれなかったのが唯一の心残りです。

以上の諸先生のほか、

薬学部 井関 健 教授、歯学部 尾西 みほ子 助教、

予防医療科学センター 田中 雅則 准教授が定年を迎えられます。

ありがとうございました。



薬学部
教授
井関 健



歯学部
助教
尾西 みほ子

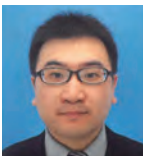


予防医療科学センター
准教授
田中 雅則

新任教員・昇任教員・新規選出教員役職者紹介

新任教員

2020年11月1日付け



薬学部 講師
(創薬化学〈薬化学〉)
平山 裕一郎 (ひらやま ゆういちろう)

筑波大学第一学群自然科学類卒業。筑波大学大学院数理物質科学研究科化学専攻博士課程後期修了。筑波大学数理物質科学研究科特別研究員、静岡県立大学薬学部特任助教、ドイツライプニッツ機関HKI研究所客員研究員、静岡県立大学薬学部生薬天然物化学研究室特任助教、同薬学部生薬天然物化学研究室特別研究員、アニコム先進医療研究所株式会社博士研究員等を経て、本学就任。理学博士。

昇任教員

2020年11月1日付け



歯学部 講師
(口腔構造・機能発育学系〈組織学〉)
建部 廣明 (たけべ ひろあき)

北海道医療大学歯学部卒業。北海道医療大学大学院歯学研究科博士課程修了。北海道医療大学歯科内科クリニック歯科臨床研修医、北海道医療大学歯学部任期制助手、同助教等を経て、就任。歯学博士。

新規選出教員役職者

2020年12月1日付け



大学病院歯科部副部長
永易 裕樹